

第4回 奥日光地域における持続可能な地域づくり検討会

令和8年3月18日
栃木県交通政策課

1. 検討会開催経過
2. 令和7年度調査結果の報告
 - (1) 地域における交通の現状
 - (2) 地域が抱える課題
3. 今後の取組方針

1. 検討会開催経過

1. 検討会開催経過

【本検討会の目的】

奥日光地域における持続可能な地域づくりに向けて、現状把握と課題の抽出を行い、関係者が連携して環境に配慮した今後の持続可能な奥日光地域のあり方を検討する。

令和6年度

第1回 検討会 (R7.1.27)

- ・検討会の設置について



令和7年度

第2回 検討会 (R7.5.26)

- ・地域課題について
- ・調査の方向性について



第3回 検討会 (R7.9.24)

- ・調査の実施方針・計画について
- ・分析イメージ、調査手法について



第4回 検討会 **【本日】** (R8.3.18)

- 令和7年度調査結果の報告
 - ・地域における交通の現状について
 - ・地域が抱える課題について
- 今後の取組方針について

1. 検討会開催経過 (調査内容)

明らかにすること		実施内容	調査結果頁
I. 交通全体 ※推計含む	1)人流	・RESAS、GPSデータ等による人の分散、集中状況の分析	2. (1)地域における交通の現状
	2)公共交通	・公共交通利用者データによる公共交通利用実態分析	2. (1)地域における交通の現状
	3)自動車	・トラフィックカウンターデータ、ETC2.0データ等による自動車交通実態分析(交通量、交通状況、経済損失、環境負荷)	2. (1)地域における交通の現状 2. (2)-3)地域が抱える課題(交通) 2. (2)-5)地域が抱える課題(環境)
II. 人の流れ	1)人の移動実態(データ)	・GPSデータ等による移動手段別の移動実態分析	2. (1)地域における交通の現状
	2)人の移動実態 (アンケート・ヒアリング)	・地域住民、来訪者へのアンケート調査、観光事業者、交通事業者、関係機関等へのヒアリング調査による移動実態や課題分析 ・過年度調査結果等による訪日外国人の移動実態や課題分析	2. (2)-1)地域が抱える課題(生活) 2. (2)-2)地域が抱える課題(観光) 2. (2)-5)地域が抱える課題(環境) 2. (2)-6)地域が抱える課題(災害)
III. 物の流れ	1)貨物車の移動実態(データ)	・企業名読取調査によるいろは坂での貨物車実態調査 ・ETC2.0データによる貨物車の移動分析	2. (2)-4)地域が抱える課題(物流)
	2)物の移動実態 (アンケート・ヒアリング)	・観光事業者、交通事業者、物流事業者へのヒアリング調査による移動実態や課題分析	2. (2)-4)地域が抱える課題(物流)

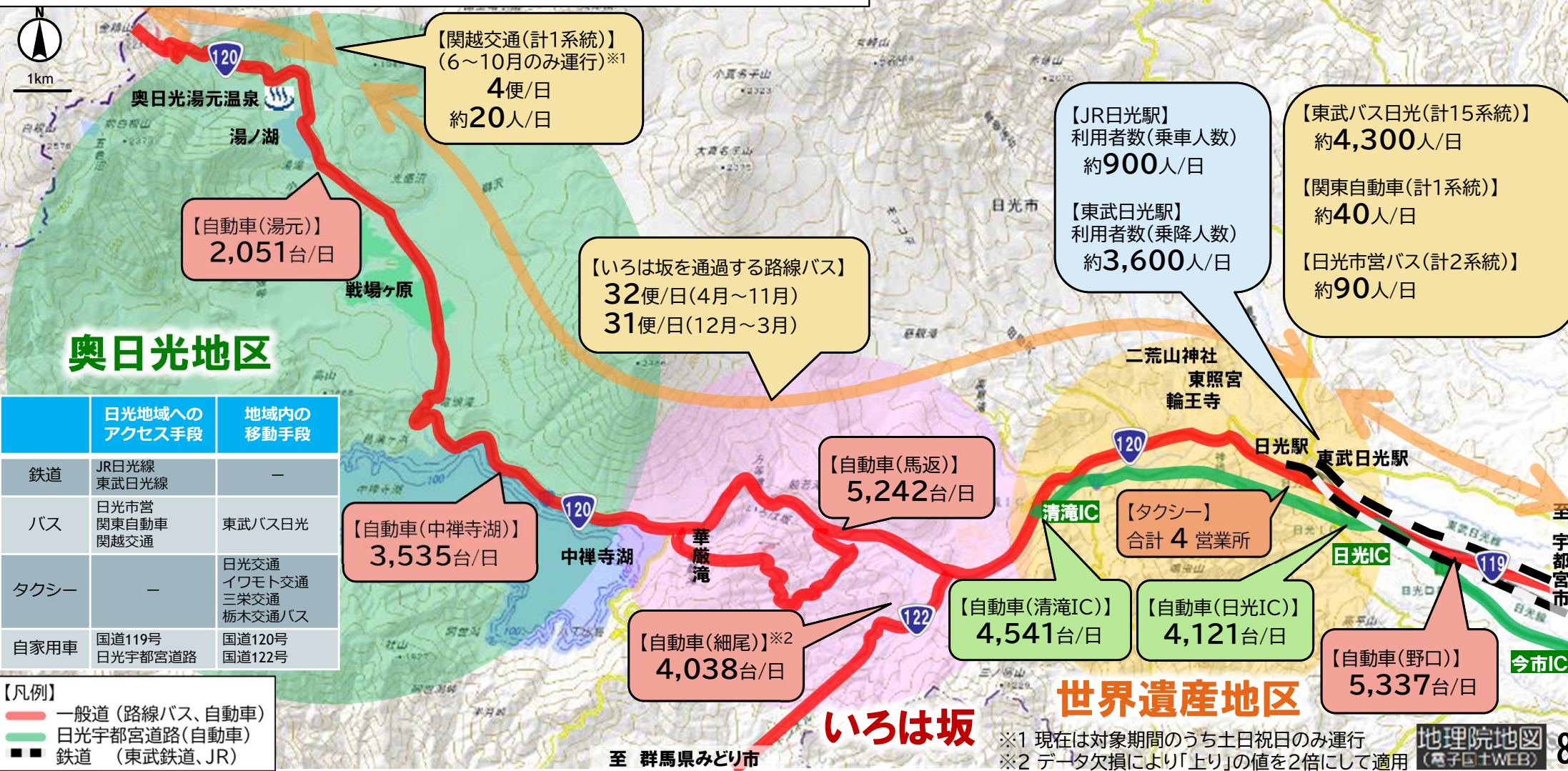
2. 令和7年度調査結果の報告

(1) . 地域における交通の現状

2-(1) . 地域における交通の現状

- 日光地域の交通ネットワークは、東武日光線、JR日光線、路線バス、タクシーなどの公共交通や、日光宇都宮道路、国道119号、120号、122号などの道路ネットワークにより形成されている。

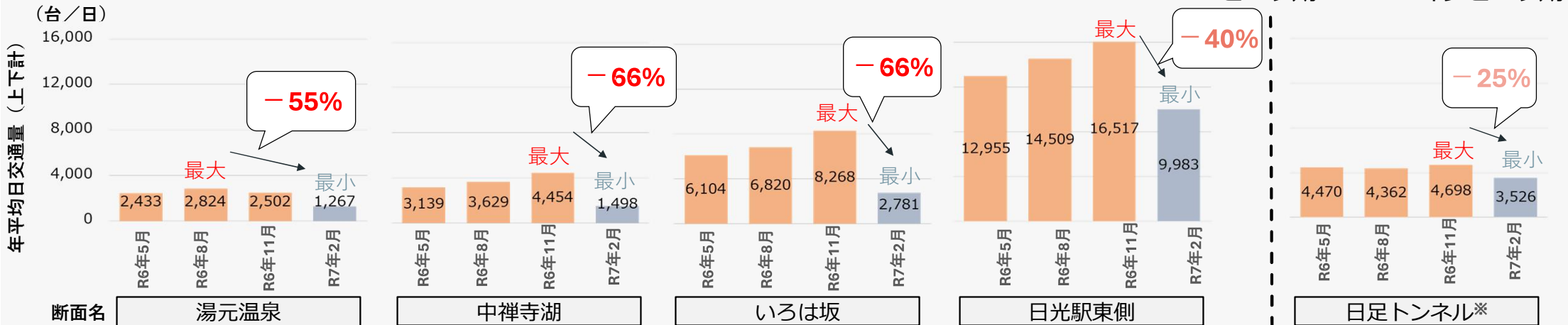
公共交通利用者データ等による交通の現状整理(2024年度)



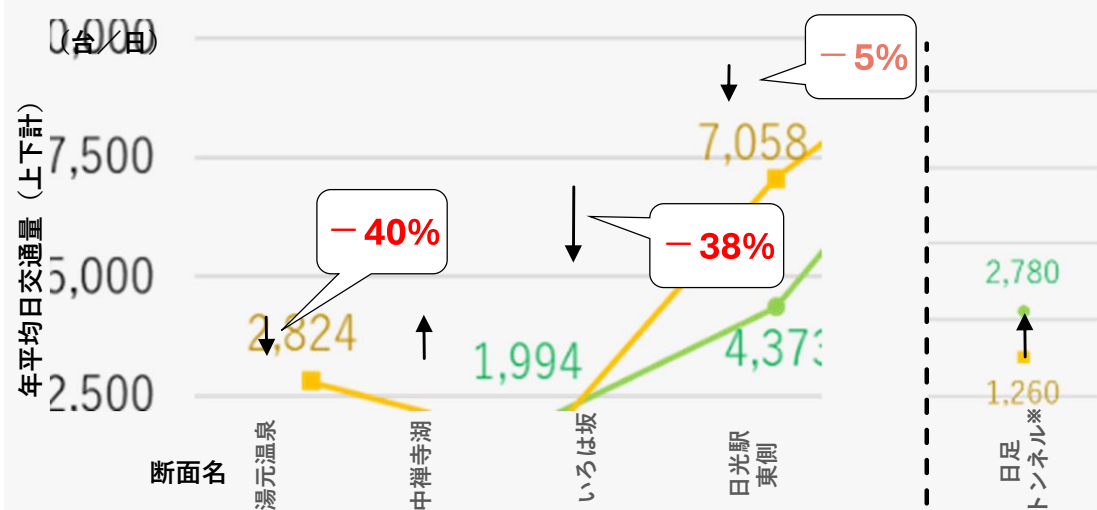
2-(1). 地域における交通の現状 (自動車交通量の変化)

- 日光地域は、それぞれのエリアにおいて季節変動が大きく、湯元温泉は8月にそれ以外のエリアは11月に自動車交通量が最大となり、全てのエリアにおいて2月が最小となる。
- いろは坂および湯元温泉は、平日休日の交通量の差が大きい。

【季節による違い】2024年度の年平均日交通量



【平休の違い】2024年度の年平均日交通量

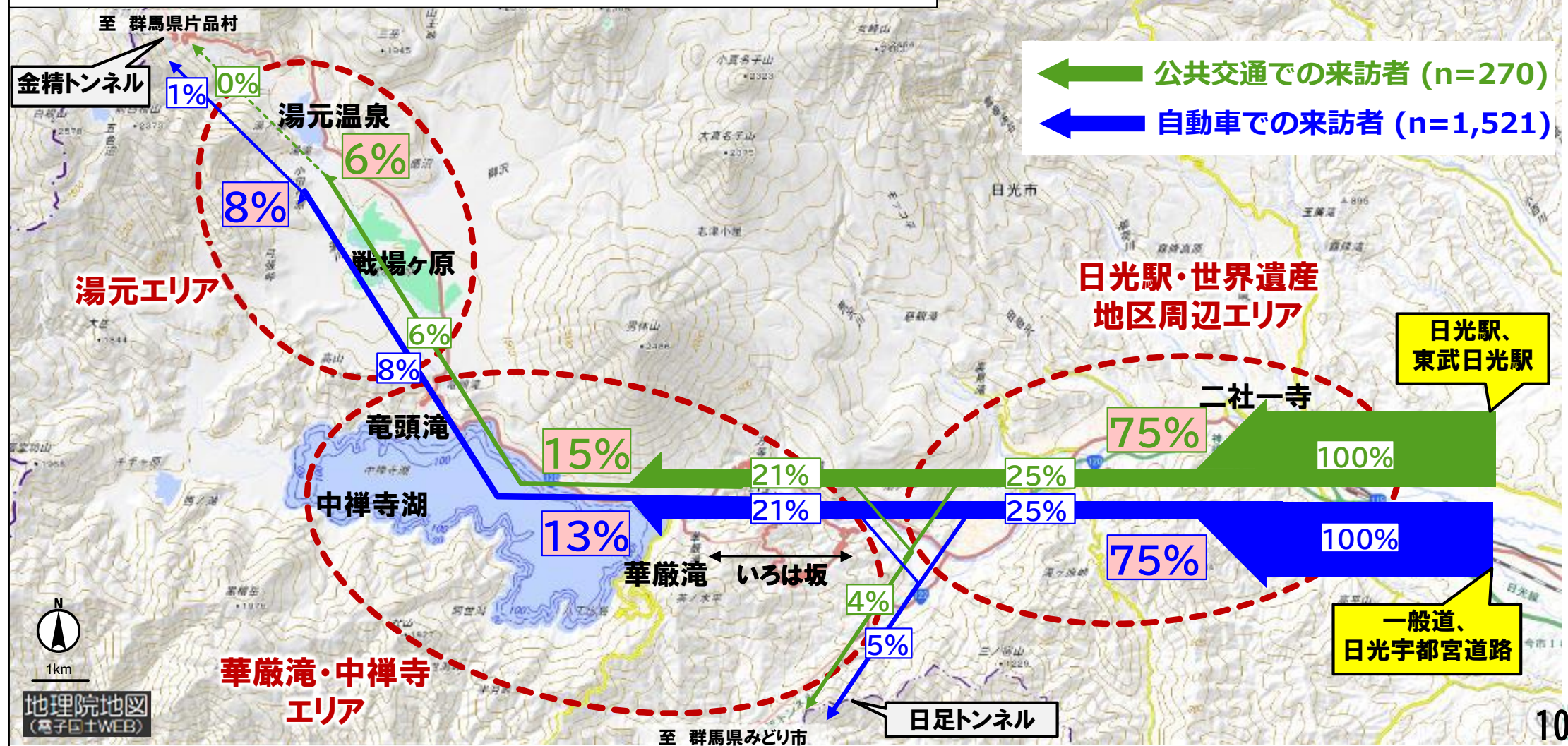


出典：トラフィックカウンターのデータを基に一部補正 ※日足トンネルは「下り」のデータ欠損により「上り」の値を2倍した値を用いた

2- (1) . 地域における交通の現状 (人の移動実態)

- ・今市 宇都宮方面からの来訪者のうち、約75%は世界遺産地区周辺を目的地としている。
- ・奥日光地域への来訪は、中禅寺湖周辺で約15%、湯元温泉周辺で約7%と世界遺産地区と比べて少ない。

携帯位置情報データによる人流分析(2024年度(5月、8月、11月、2月))



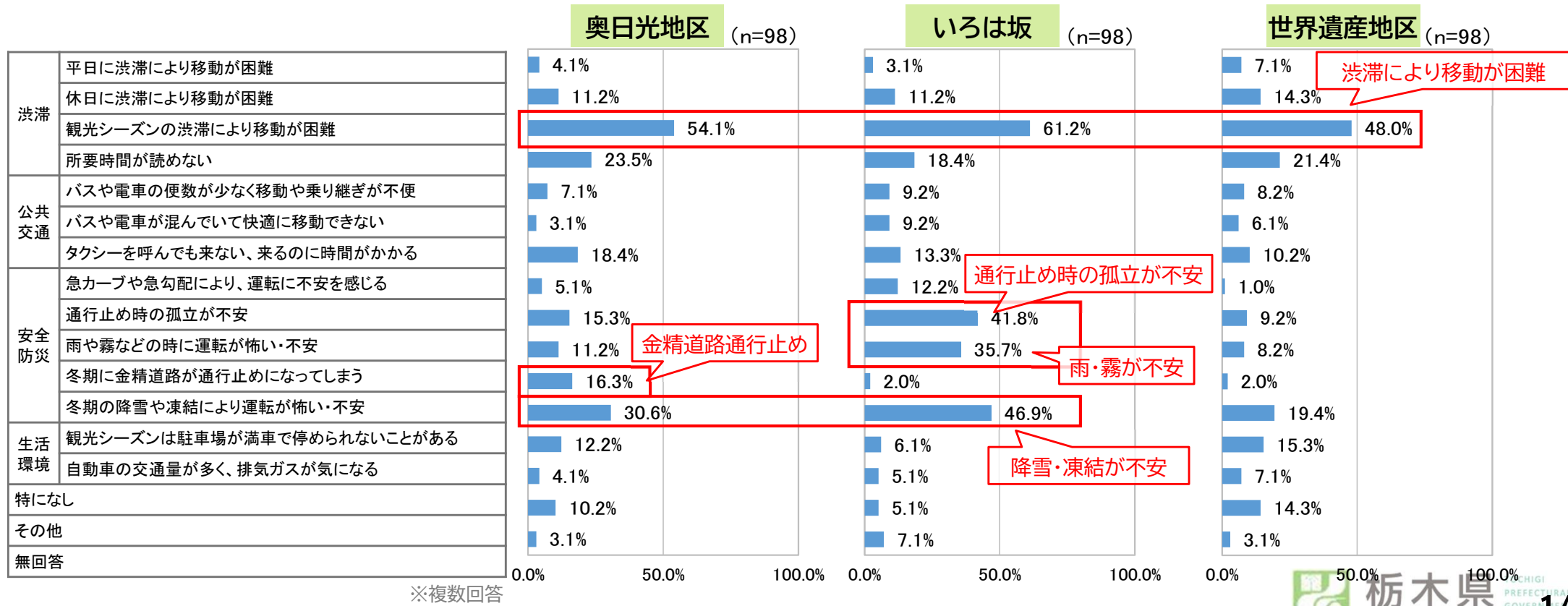
(2) . 地域が抱える課題

1) . 生活

2-(2)-1) . 地域が抱える課題

- ・ 奥日光地域の住民が交通面で感じている課題としては、渋滞による移動困難が最も強く認識されている。
- ・ いろは坂に関しては、災害時通行止めによる孤立、雨・霧による視界不良、冬期の降雪・凍結を課題として感じている。
- ・ 奥日光地区に関しては、冬期の金精道路通行止めが大きな課題となっている。

地域住民アンケートによる日常移動の課題分析



2-(2)-1) . 地域が抱える課題

- ・ 買物や通院などの日常の移動に対して渋滞の影響を感じる人が多い。
- ・ 観光客の運転マナーへの不安など、観光地特有の課題も確認された。
- ・ 観光シーズンには、一般道ではなく有料道路を使って渋滞を回避することや、混雑により公共交通が利用できないという意見も寄せられた。

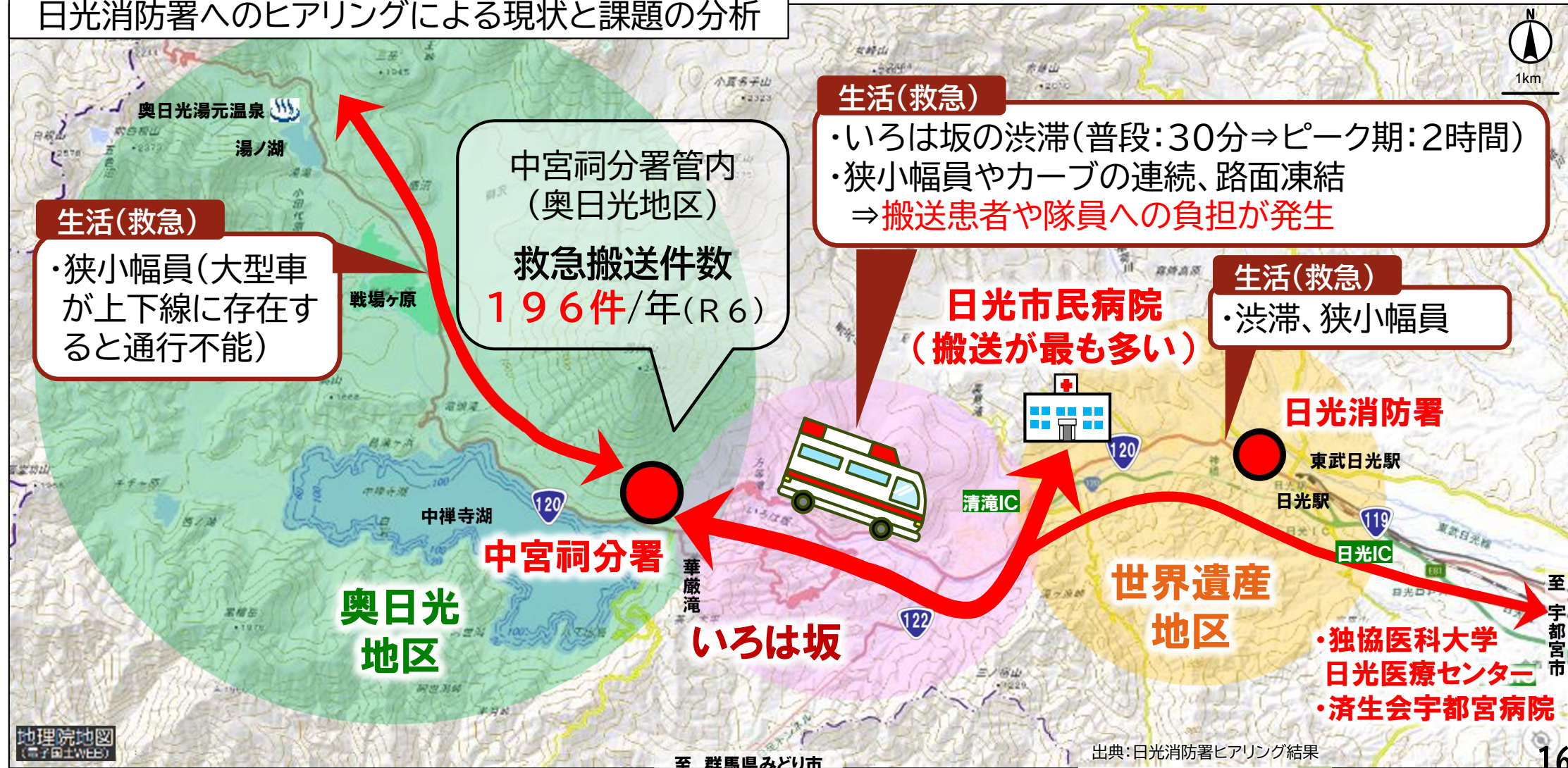
地域住民アンケートによる日常移動の課題分析(自由意見)

奥日光地区	いろは坂	世界遺産地区
<p><渋滞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紅葉シーズンの渋滞により、遅刻してしまったことがある。 <p><観光客の運転マナーなど></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客が、渋滞もないのに法定速度を大幅に下まわる速度で追いつき禁止区間をゆっくり走行していて迷惑。 <p><日常生活での移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中禅寺湖周辺は買い物できる場所が限られていて、日用品の多くは日光より先、今市・宇都宮までいく必要がある。 <p><冬季の移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の戦場ヶ原のホワイトアウトに危険を感じた。 ・ 金精道路の冬期開通を望む。 ・ いろは坂と金精が不通になると陸の孤島になる。 	<p><渋滞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろは坂の渋滞により、病院に行けなかったことや買い物に間に合わなかったことがある。 ・ いろは坂の紅葉シーズンで4時間かかった事があるが非常に困る。 ・ 華厳の滝付近の駐車場で渋滞が頻繁に起き、移動時間が読めない。 ・ 明智平付近は渋滞が緩和されない。 <p><観光客の運転マナーなど></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の運転に不安を感じる。 ・ 多くの観光客が来てくれることは嬉しいが、車道にはみ出している写真撮影や横断歩道が無い所での無理な横断をやめてほしい。 <p><公共交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスを利用して日光駅まで行ったが、混んでいて座る事が出来ず、立ったままいろは坂を降りた。 	<p><渋滞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内に買い物に行った後、時間までに帰って来れなくて困る。 ・ 神橋付近、ほぼ毎日車の渋滞が酷く移動に困難。 ・ 今市より先に行くには有料道路を使う事を考えるが、旧日光市内に用事がある場合は抜けられる道がないので諦めて渋滞にはまる。 ・ 渋滞の酷い時は、ほぼ日光宇都宮道路を使って移動することが多い。 <p><観光客の運転マナーなど></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レンタカーによる不慣れたドライバーが危ない。 <p><公共交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細尾町内はバスが廃止となってしまう、移動が自家用車のみとなってしまう。紅葉等の観光シーズンでは今市、宇都宮方面への移動が困難。

2-(2)-1) . 地域が抱える課題

- ・中宮祠分署の救急搬送件数は、年間196件であり、すべていろは坂を利用して搬送。
- ・いろは坂の渋滞や道路構造、冬期の路面状況により円滑な救急搬送が阻害され、搬送患者や救急隊員への負担が大きくなっている。

日光消防署へのヒアリングによる現状と課題の分析



2-(2)-1) . 地域が抱える課題

- ・いろは坂の交通事故発生件数は、年間136件である。
- ・緊急出動では、いろは坂の渋滞により、現場到着時間が通常よりも2倍かかることがある。さらに、他の現場への対応も遅れることがある。

日光警察署へのヒアリングによる現状と課題の分析

いろは坂の交通事故件数

年間**136件**(R6)

(人身事故件数：3件、物件事故件数：133件)

(**3日に1件以上**発生)

奥日光
地区

中宮祠交番

いろは坂

清滝駐在所

世界遺産
地区

細尾駐在所

生活(警察)

- ・いろは坂の渋滞、迂回路がない
- ⇒ 現場到着時間の遅れ
- 他の現場への対応の遅れ



2) . 観光

2-(2)-2) . 地域が抱える課題

- 世界遺産地区と奥日光地区を結ぶいろは坂では、**ピークで約18,000台/日(11月3日)、オフピークで約1,600台/日(3月5日)**の自動車交通量があり、**約1.1倍の差**が生じている。
- いろは坂区間において、**年間95日(27%)**で**渋滞・混雑が発生**している。

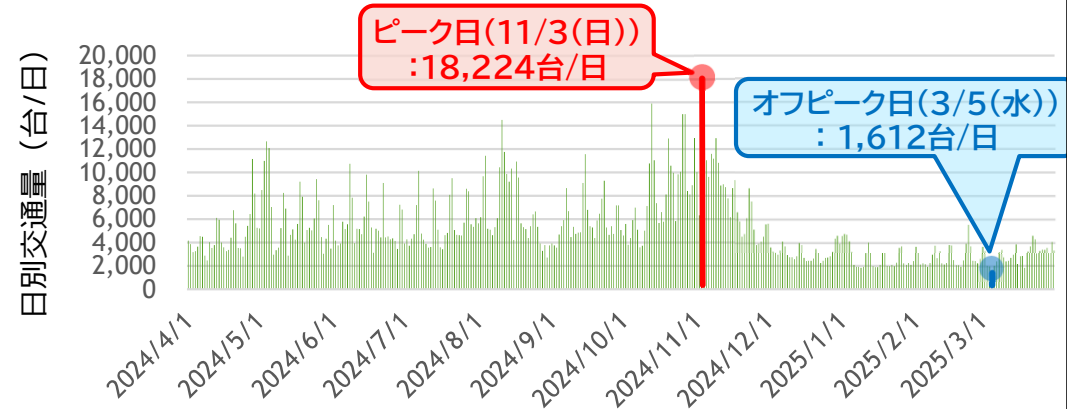
ETC2.0データ等による自動車交通の分析

いろは坂の交通特性

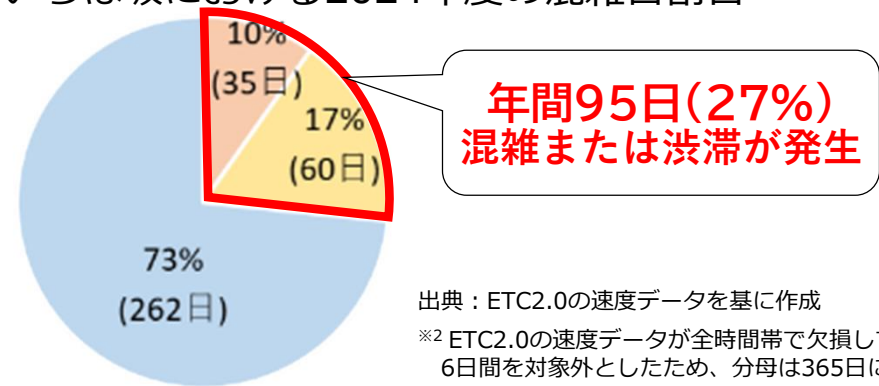
- 急峻かつ脆弱な山岳地形に位置し、大幅な標高差を短距離で克服するため、連続する急カーブ・急勾配を有する構造。
- 紅葉期等の観光シーズンの交通集中や、事故や災害の発生時には交通の隘路となりやすい。



いろは坂断面における2024年度の日別交通量



いろは坂における2024年度の混雑日割合※2



出典：ETC2.0の速度データを基に作成
 ※2 ETC2.0の速度データが全時間帯で欠損している6日間を対象外としたため、分母は365日にならない

- 【凡例】
- 渋滞日 (区間平均速度10km/hの時間帯が存在する日)
 - 混雑日 (区間平均速度10~20km/hの時間帯が存在する日)
 - 平常日



※1 いろは坂区間のうち、信号交差点100m付近を除いたDRM区間

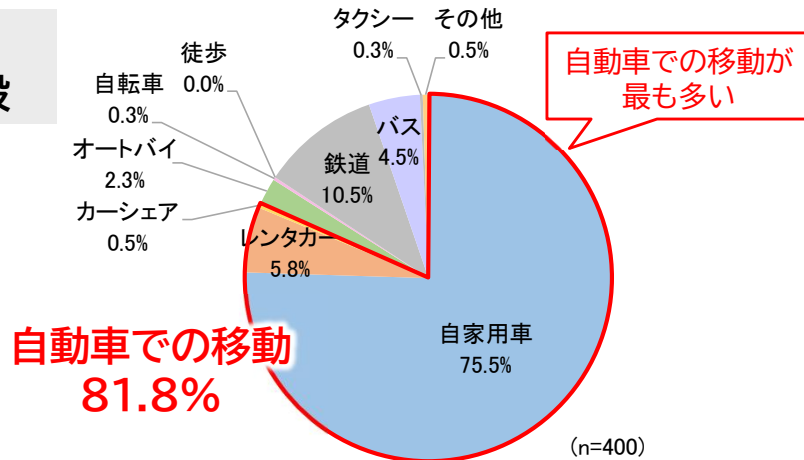
2-(2)-2) 地域が抱える課題

- 国内来訪者は、日光市への交通手段および地域内での交通手段ともに、**自動車での移動が最も多く、全体の約8割を占めている。**
- 訪日外国人来訪者の日光市への交通手段は**鉄道が最も多く、全体の約8割を占めている。**

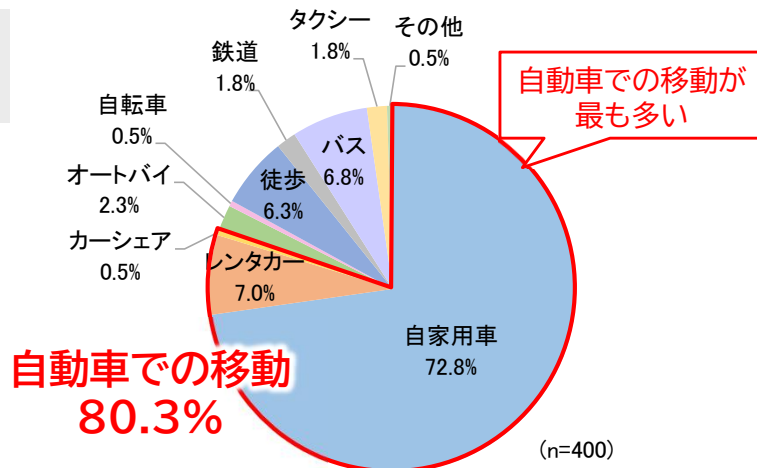
国内来訪者アンケートによる移動手段の把握

<国内来訪者の交通手段> ※単一回答(主な交通手段)

本地域への交通手段



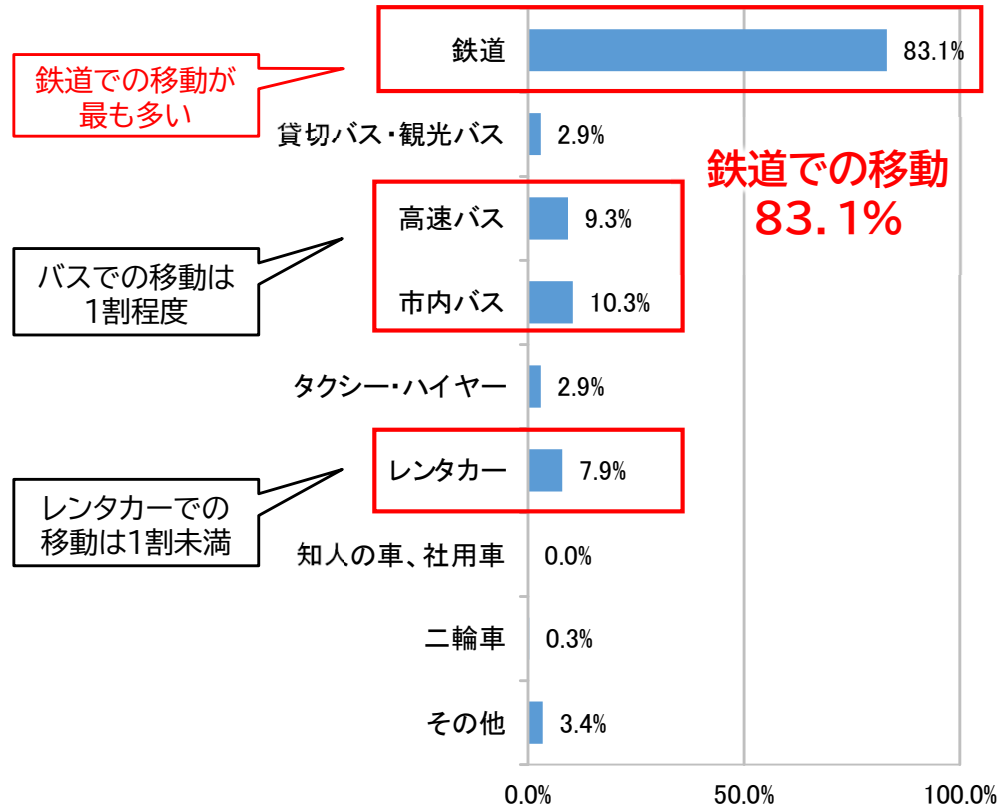
地域内での交通手段



訪日外国人アンケートによる移動手段の把握

<訪日外国人の交通手段> ※複数回答(前の滞在エリアからの交通手段)

本地域への交通手段

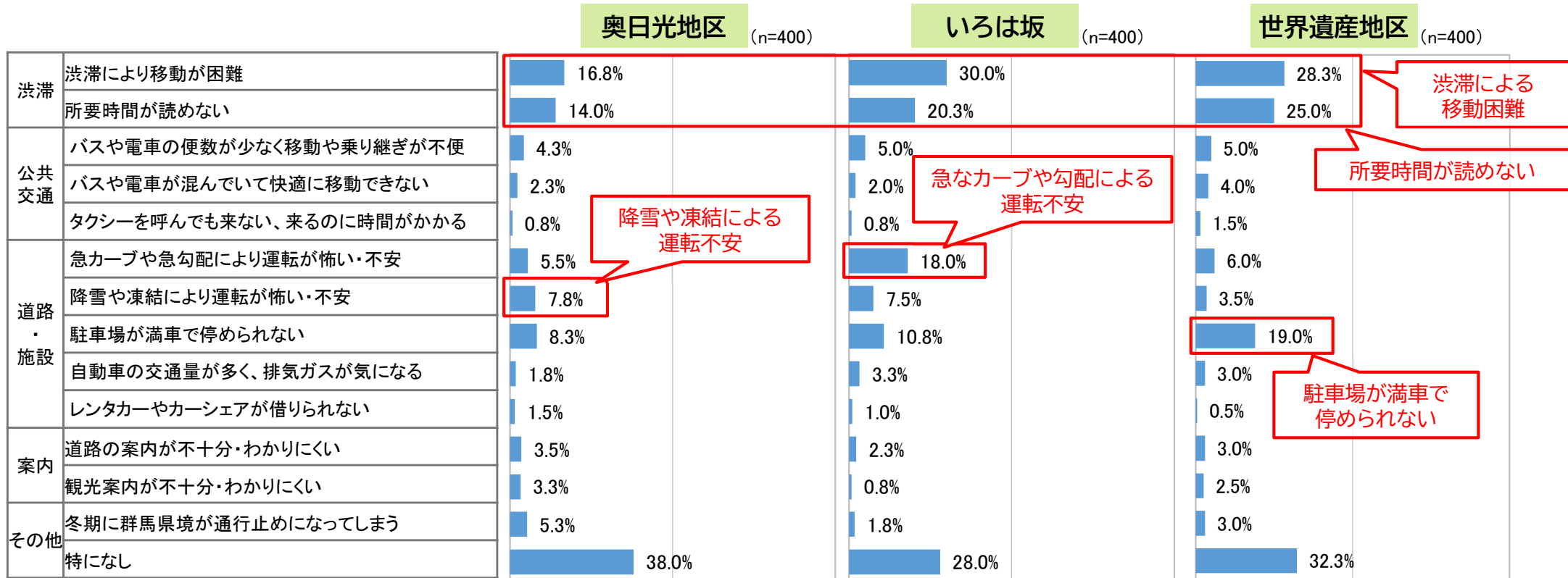


出典: 令和7年 日光市訪日外国人観光客動向調査(日光市観光協会)
集計対象期間: R7年8月11日~R8年2月5日(回答数: 378)

2-(2)-2) 地域が抱える課題

- 日光地域への来訪者は、渋滞に伴う移動のしにくさや、所要時間の読みにくさを課題として感じている。
- 奥日光地区に対しては降雪や凍結、いろは坂に対しては急なカーブや勾配、世界遺産地区に対しては駐車場の満車を課題と感じる人の割合が高い。

来訪者アンケートによる移動に関する課題分析



※複数回答

渋滞による移動困難

所要時間が読めない

降雪や凍結による運転不安

急なカーブや勾配による運転不安

駐車場の満車で止められない

2- (2) -2) . 地域が抱える課題

- ・ 来訪者からは、紅葉シーズンや休日の渋滞、駐車場の混雑が課題として多く挙げられている。
- ・ 渋滞・混雑によって、予定の変更や、移動が制限されるなどの課題が生じている。
- ・ 来訪したことがない人にとっても、日光は「渋滞・混雑」というイメージが強い。

来訪者アンケートによる移動に関する課題分析(自由意見)

本地域全体

<渋滞>

- ・ **渋滞がおこる休日**を外して来訪している。(来訪者)
- ・ **混雑する紅葉シーズン(いろは坂)**と凍結のおそれがある冬は訪問しないようにしています。(来訪者)
- ・ 紅葉シーズン、下り120号の**渋滞**で日光駅近くの**レストラン予約に遅れた**。(来訪者)
- ・ ホテルへのチェックインが、**渋滞により遅れた**。(来訪者)
- ・ 高速を降りてから**渋滞で行き先を変更した**。(来訪者)
- ・ 紅葉シーズンに行きたいと思うけど、**渋滞が凄**い。逃げ道が無いから困る。(未来訪者)
- ・ 交通状況、駐車場状況などリアルタイムでわかると良い。(未来訪者)

<駐車場>

- ・ **駐車場が混雑**しており空きがなく、やっと停めた。駅までの道を歩き食べたりしたかったが、**遠かったので諦めた**。(来訪者)
- ・ 観光で訪問したが、見頃の時期は**駐車場が見つからず苦労した**。(来訪者)

<公共交通>

- ・ 往路のバスは**いろは坂の上りで渋滞**し、復路のバスは**遅れていて待たされた**。(来訪者)
- ・ 「1日周遊観光バス」があれば良い。(未来訪者)

奥日光地区

<駐車場>

- ・ **中禅寺湖周辺の駐車場が満車**で駐車するまでに時間がかかった。(来訪者)
- ・ 国道120号沿いに停めて湯ノ湖を歩きたかったが、**駐車が数台分しかなかった**ので、湯元温泉まで行って駐車した。(来訪者)

いろは坂

<渋滞>

- ・ **いろは坂の渋滞**がひどい。(来訪者)
- ・ **明智平から中禅寺湖**にかけての国道の**渋滞が苦痛**だった。(来訪者)

<駐車場>

- ・ **華厳の滝を見る駐車場**がいっぱいだった。(来訪者)
- ・ 明智平駐車場が平日でも車道で待つことが多い。(来訪者)

<運転の不安>

- ・ **いろは坂のカーブ**が怖い。(来訪者)
- ・ **大型車とのすれ違い**が怖い。(来訪者)

世界遺産地区

<渋滞>

- ・ **日光東照宮付近の道路渋滞**により**駐車にかなり時間を要した**。(来訪者)
- ・ 東照宮**駐車場に入れない車列の渋滞**。(来訪者)
- ・ 日光駅から東照宮方面の**交通渋滞が激しく時間がかりすぎる**こと。(来訪者)

2-(2)-2) . 地域が抱える課題

- 観光事業者では、渋滞により従業員が勤務時間に間に合わないなどの課題が生じている。
- 冬期は雪の問題やコンテンツ不足により、地域の魅力が低下してしまう。
- いろは坂を上る負担もあり、特に奥日光地域では従業員の確保が難しい。

観光事業者ヒアリングによる現状と課題の分析

- 繁忙期には従業員が渋滞に巻き込まれ、勤務時間に間に合わないことがある
- ホテル利用者が渋滞に巻き込まれると、チェックインの時間が読めず、食事の提供などに苦慮する
- 雪道の運転に不安があり、来訪を断念してしまうことがある
- 駐車場が不足しており、日中の駐車が困難なことが多い
- 観光バス(大型バス)が停車できる場所が限られており、来訪地が限定されてしまう
- 旅行プランを作成する際、渋滞時期は時間が読めず、予約が必要なコンテンツを組み込むことができない
- 冬期は雪の問題やコンテンツの不足により魅力が低下してしまう
- 冬の閑散期に移動手段と宿泊施設の間をつなぐコンテンツや施設が不足している
- 金精道路を全年通行できることで、丸沼スキー場の利用者が湯元に宿泊するなどのニーズが見込まれる可能性はある
- 奥日光は両替できる場所が不足している
- 奥日光の飲食店や駐車場などでキャッシュレス未対応が多く、ATMも少ない
- 夜間営業しているお店もなく、ホテル以外での食事等が困難
- 通信環境が悪いことによるデジタルチケットや翻訳機器などの使用に制限が生じている
- 宿泊施設の人手不足により、団体旅行客の受入が困難
- 地域の高齢化による働き手不足が生じている
- いろは坂による通勤負担もあり、従業員の確保が難しい(深夜、早朝など短時間勤務の雇用が難しい)
- 移動自体をアトラクション化できれば目的地として多くの魅力が生じるのではないか

3) . 交通

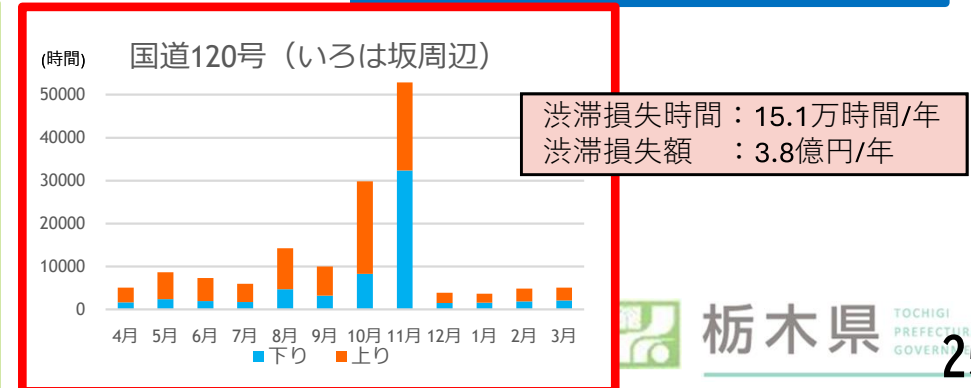
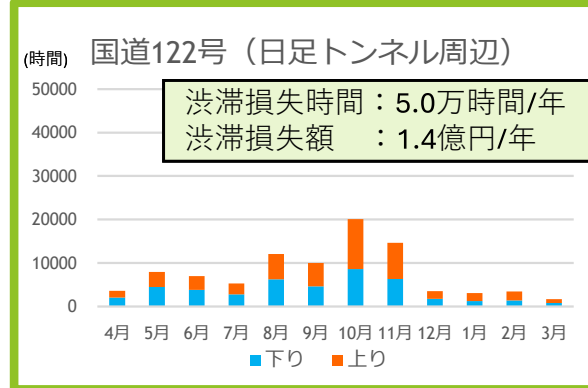
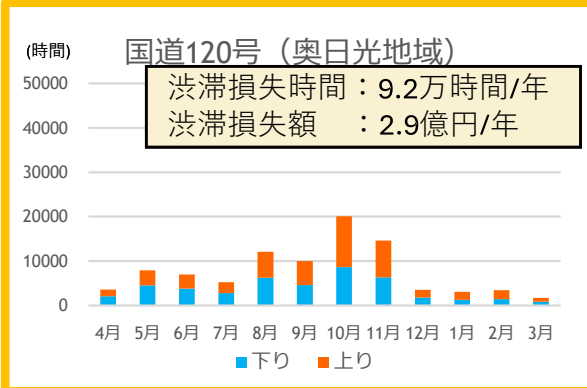
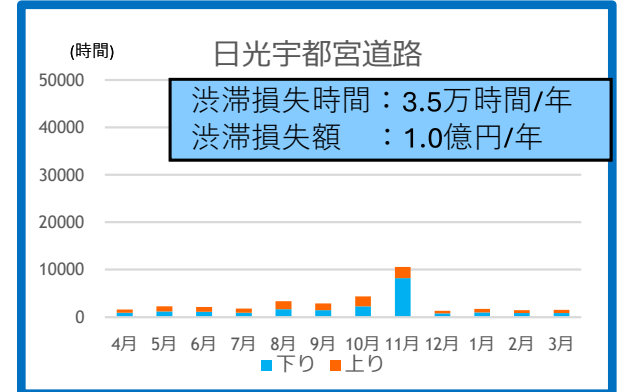
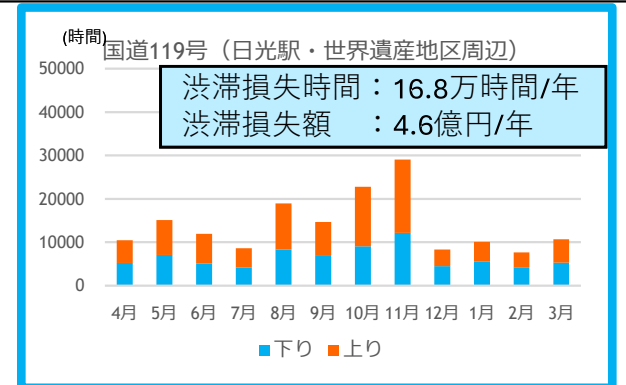
2-(2)-3) . 地域が抱える課題

- ・エリア全体において、年間で約49.7万時間の渋滞損失時間、約13.7億円の渋滞損失額が生じている。路線別では、秋のいろは坂周辺での渋滞損失が最も大きい。

自動車交通量分析による渋滞損失の算出



出典：トラフィックカウンターおよびH17道路交通センサスデータ、ETC2.0プローブ情報をもとに作成



2-(2)-3) 地域が抱える課題

- 地域を支える交通事業者は、奥日光地域へのアクセス経路の不足、繁忙期における世界遺産地区やいろは坂の渋滞、いろは坂の運転者の負担などを課題として感じている。
- 運転士の高齢化や若手人材の不足が生じており、公共交通の維持確保が大きな課題となっている。

交通事業者ヒアリングによる現状と課題の分析

- 奥日光地域へのアクセス経路がいろは坂しかないため、道路状況や交通状況により迂回ができない
- いろは坂の渋滞の影響で従業員が出勤時間に間に合わないことがある
- 繁忙期の渋滞により、路線バスなどの定時運行に支障が生じている
(神橋まで1~2時間、中禅寺湖まで最大5時間かかることがある)
- 繁忙期に鉄道の輸送量に対してバスの輸送能力が不足し、日光駅での乗りこぼしが発生してしまう
- いろは坂での運転技術(渋滞時の発進操作)、トイレ問題など運転士の負担が大きい
- いろは坂を走行することによる車両の摩耗が著しい
- 冬期の運転(積雪、路面凍結)に対する不安がある
- 駐車場の容量が不足しており、駐車場待ちの渋滞が発生してしまう
- 奥日光地域はタクシー不足が生じている
- 中禅寺湖から先の移動手段の充実が必要である
- 鉄道、バス、タクシーなど公共交通の運転士の高齢化と若手人材の不足が課題となっている
- 運転士が不足しているため、バスの増便を行いたくてもできない
- 世界遺産地区、奥日光地区の往復は時間がかかり、効率が悪い(どちらか片方だけであれば効率的な運行が可能となる)

4) . 物流

2-(2)-4) 地域が抱える課題

- ・ 企業名読取調査により、1日に48社がいろは坂を通過していることが確認された。
- ・ 業種は「小売業・卸売業（食品、土産品等）」が約4割、次いで「運輸業、郵便業、宅配業」が約3割を占めている。
- ・ 取扱品目は食品・飲料品が半分以上を占め、次いで燃料や旅館、ホテル用品が多い。

企業名読取調査による物流実態の把握

企業名読取調査の概要

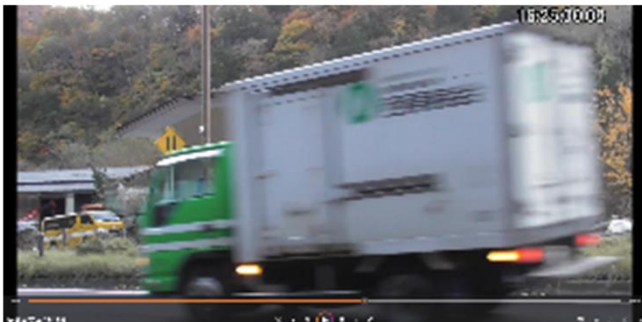
日時:2025年11月4日(火)6時~19時

場所:馬返駐車場付近

調査方法:ビデオカメラ調査を実施し、撮影した映像から通行する車両の企業名を読み取る

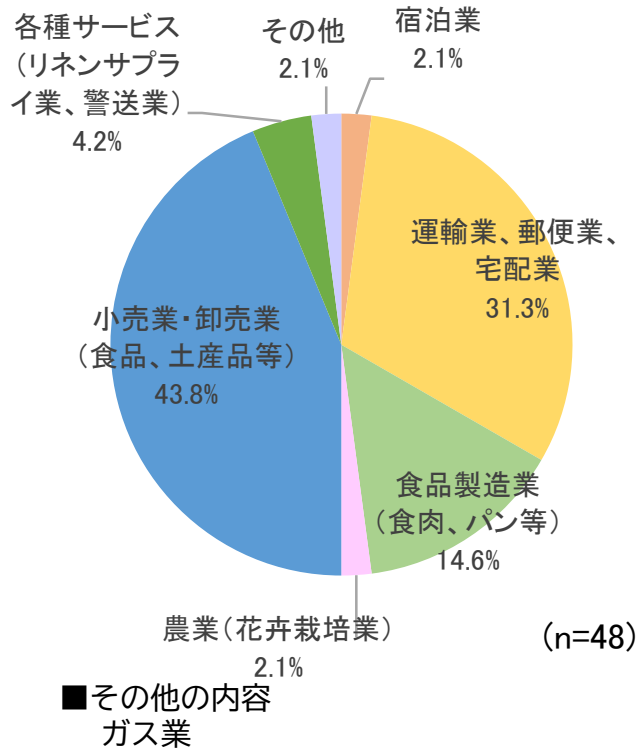


結果の一例（中禅寺方面）

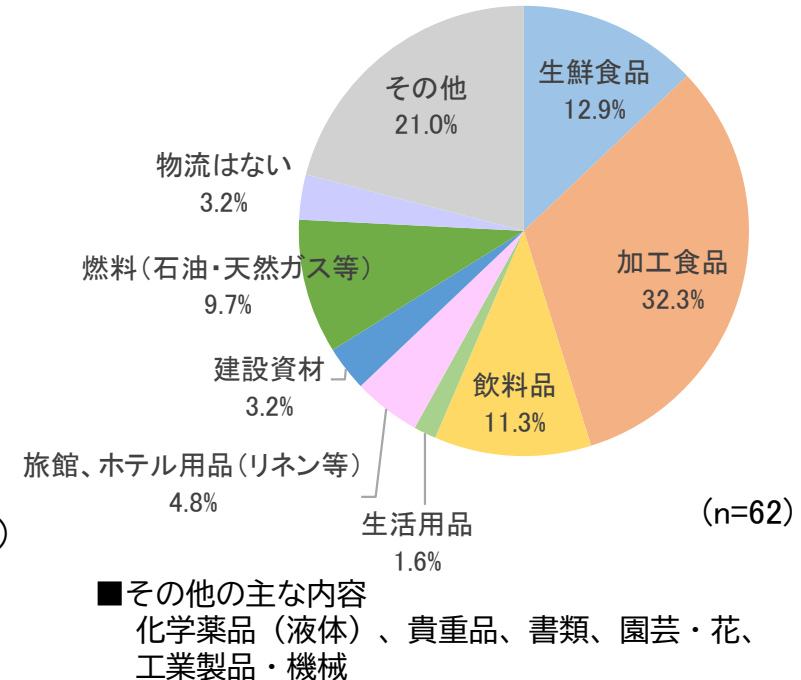


結果の一例（宇都宮方面）

業種・業務内容



取扱品目



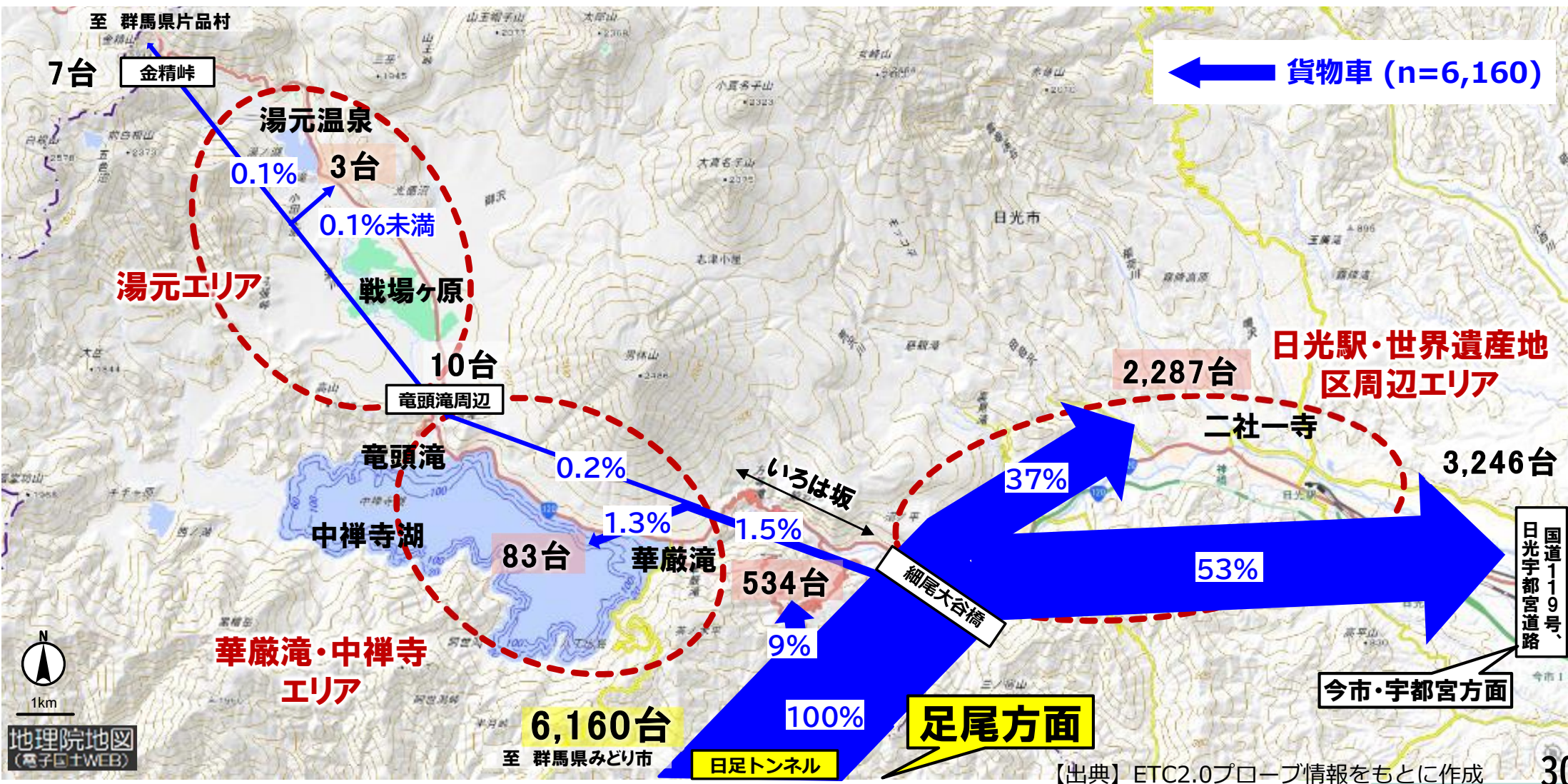
※その他には宅配（具体の取扱品目は不明）を含む

※企業名読取調査で読み取った企業について、公開情報をもとに整理。アンケートの回答を得られた企業についてはその結果を使用。

2-(2)-4) 地域が抱える課題

- 足尾方面から流入した貨物車のうち、約53%が今市・宇都宮方面へ向かう交通であり、約37%が日光駅・世界遺産地区周辺エリアを目的地としている。

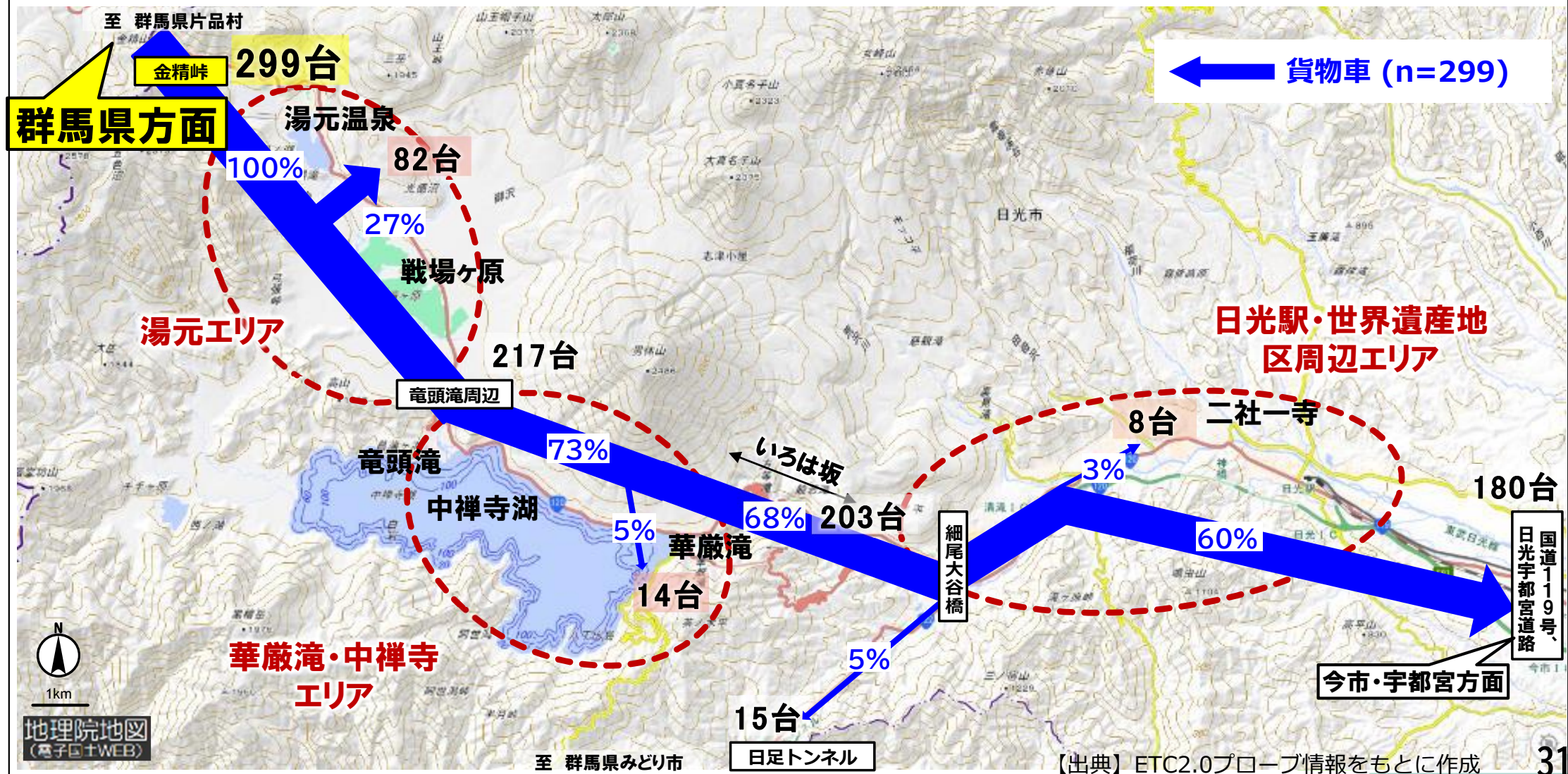
ETC2.0データによる貨物車の移動分析(2024年度(5月、8月、11月、2月))



2-(2)-4) 地域が抱える課題

- 群馬県方面から流入した貨物車のうち、約27%が湯元エリアを目的地としており、全体の約68%がいろは坂を通過している。

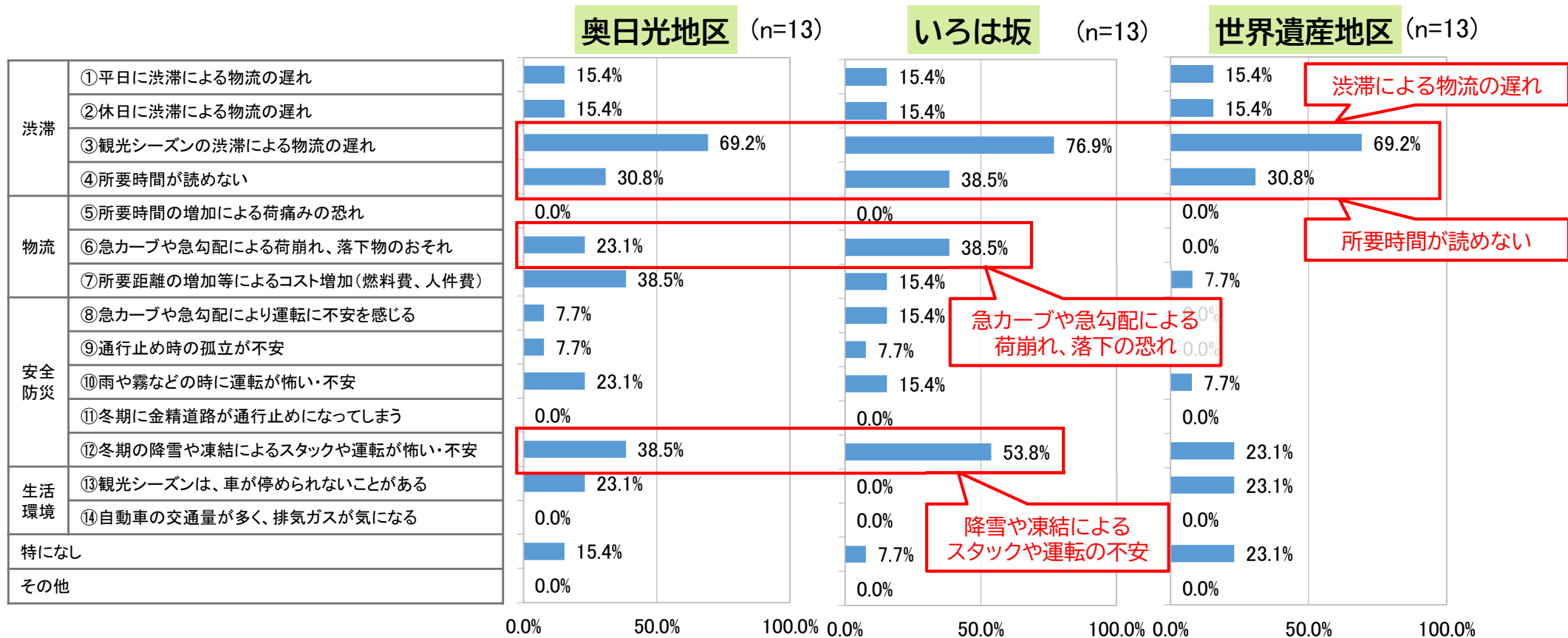
ETC2.0データによる貨物車の移動分析(2024年度(5月、8月、11月、2月))



2-(2)-4) 地域が抱える課題

- ・ 物流事業者は、渋滞による物流の遅れ、所要時間が読めないことを課題に感じている。
- ・ いろは坂と奥日光地区に対しては、急カーブや急勾配による荷崩れや落下物のおそれ、冬期の降雪や凍結によるスタックや運転が怖い・不安という意見が多く確認された。

物流事業者アンケートによる移動の課題分析



2- (2) -4) . 地域が抱える課題

- 物流事業者では、渋滞の影響による物流の遅延が大きな課題となっている。
- ホテルへの食品などは、前日に配達するなど渋滞の影響を減らす行動が取られている。
- いろは坂による配送者（ドライバー）の負担も大きく、通常より慎重な運転が求められる。
- 物流事業者においても、働き手不足が課題となっている。

物流事業者等アンケートによる現状と課題の分析

- 繁忙期は**渋滞の影響で配達時間に遅延**が生じてしまう
- 渋滞の影響で配送車両の駐車場所が確保できない
- 紅葉シーズンは**渋滞を避けるために早朝に車両の手配**を行う必要がある
- ホテルなどへの食品については、渋滞の影響が予想される時期は前日配達を行っている
- 渋滞の影響により集荷した荷物が当日の営業所発送時間に間に合わないことがある
- **いろは坂を使用した運送はカーブが多く勾配が急であるため、荷崩れや落下のリスクが大きく、ほかの道路と比べて慎重な運転が求められる**
- **冬期は凍結や積雪による運転に不安を感じる**
- 大型トラックの輸送は**積雪時の除雪状況に左右されてしまう**
- 金精道路が冬期通行止めとなるため、最寄りの施設(群馬側)からの建設資材の搬入が不可となってしまった
- **人手不足で奥日光地域まで配送してもらえなくなる事象も発生**している
- **担い手不足や高齢化による働き手の不足**が生じている
- 共同配送に関する話はあるが、配送の条件など実現へのハードルが大きい
- 卸業が自ら配達しているものを集約することにより、輸送力の確保やCO2の削減につながると考える
- 新たなモビリティが荷物を運ぶ新たな手段となればと期待している

5) . 環境

日光国立公園ステップアッププログラム2030 (案) の概要について

国立公園のブランド力向上を目指す環境省の「国立公園満喫プロジェクト」の一環として、日光国立公園における今後5年間のロードマップとなる(ステップアッププログラム2030)を地域の関係者と策定した。

1. 計画期間

令和8(2026)年
～**令和12(2030)年**の5ヵ年

2. コンセプト(基本概念)・スローガン

基本概念となるコンセプトに加え、100周年の節目に向けたスローガンを策定

○コンセプト(基本概念)

NIKKO is NIPPON

いつでも何度でも。

多彩な自然と歴史文化が息づく舞台へ



○100周年に向けたスローガン

未来へ紡ぐ共生の100周年に向けて
**愛着と誇りを、日光国立公園の
成長と継承の力に**

3. プロジェクトの実施

- ・日光国立公園の強みや課題を踏まえて3つの重点的取組方針を策定
- ・ターゲットの設定：
自然や歴史文化の背景のストーリーに関心を持ち、滞在を通じて深く体験しようとする来訪者で、エリア毎にも特性により具体的な世代や国別ターゲットを設定。
- ・重点的取組方針とターゲットを踏まえ、**全エリア共通**で行う取組を実施
- ・**エリア毎**にも、重点的取組方針と各エリアのターゲットを踏まえた取組実施

重点的取組方針	主な取組事項(共通取組)
①多彩なアクティビティを強みに、もう一泊、もう一足、滞在・周遊したくなる国立公園に！	・アクティビティの充実、認知度向上 ・日光国立公園認定ガイドの活用 ・ロングトレイル
②より身近な国立公園に！my国立公園	・利用マナーの明確化、周知 ・保全活動コンテンツの作成 ・修景伐採の実施、案内板等の多言語化
③移動をコンテンツに・楽しみに！	・二次交通の充実 ・移動手段のコンテンツ化

4. 数値目標

消費額などの量的指標だけでなく、取組成果を多角的に評価するための指標を設定

指標	実績(2024年)	目標(2030年)
量的指標	入込客数 国立公園全体1,463万人 外国人42.8万人	国立公園全体1,910万人 外国人57.2万人
	宿泊者数 国立公園全体512万人 外国人20.8万人	国立公園全体740万人 外国人29.5万人
	1人当たりの観光消費額 外国人157,143円 日本人42,174円	外国人185,000円 日本人47,000円

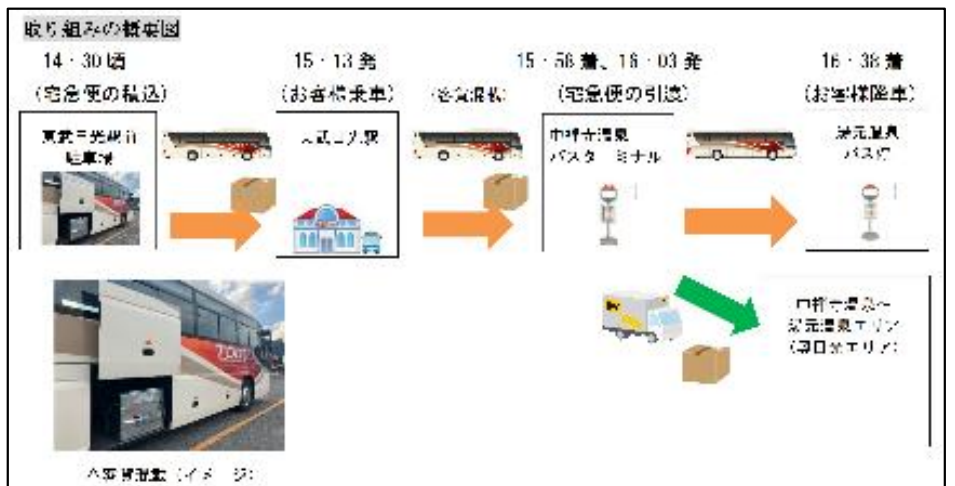
※これらに加えて、質的指標(満足度など)や各重点的取組方針ごとの評価指標を導入

2- (2) -5) . 地域が抱える課題

・奥日光地域では、ホテル事業者や観光関連事業者、交通事業者、物流事業者等が環境配慮の取組を実施している。

地域における環境に配慮した取組 (事業者へのヒアリングより)

事業者	取組内容、課題
ホテル事業者	<ul style="list-style-type: none"> EV充電スタンドを設置した。
観光関連事業者	<ul style="list-style-type: none"> 法人向けの旅行中に排出するCO₂をJ-クレジット制度を活用し、ゼロにする取組を実施している。 グループ各社において、奥日光エリアでの低公害バス事業におけるEVバス導入やハイブリッド運行を推進中。
交通事業者 (バス)	<ul style="list-style-type: none"> 奥日光地域のホテル事業者と協力し、バイオディーゼルを導入している。 排ガス規制対応車両を導入している。 EVバスは、技術の進展とコストの変化を注視して導入時期を見極めていきたい。
交通事業者 (タクシー)	<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド車を導入している。 EVは航続距離、充電時間、充電場所の問題があり、導入が難しい。
物流事業者	<ul style="list-style-type: none"> バス事業者と連携して客貨混載を実施し、奥日光地域における集配車両の走行距離を削減している。



客貨混載の概要 出典：東武鉄道株式会社プレスリリース



▲ 栃木県内の東武グループ施設 ▲ バイオ燃料製造プラント ▲ バイオ燃料バス

バイオ燃料の精製・利用の流れ 出典：東武鉄道株式会社プレスリリース

2-(2)-5) 地域が抱える課題

- ・自動車交通によるCO₂排出量は、年間約2.2万トンである。
- ・渋滞解消されることで、最大約4.6千トンのCO₂排出量の削減が可能である。

自動車交通量及び旅行速度分析によるCO₂排出量の算出

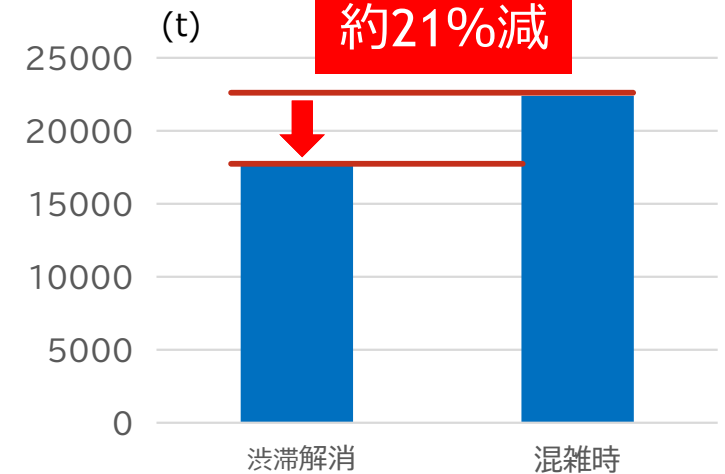
■算定対象エリア



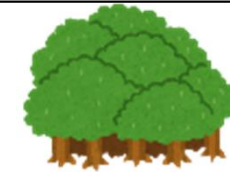
■対象路線

- ・国道119号・国道120号：日光口～湯元
- ・日光宇都宮道路：今市IC～清滝IC
- ・国道122号：清滝一丁目～田元

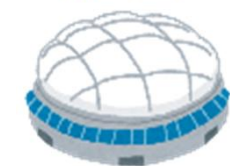
■CO₂排出量



CO₂排出量の削減イメージ



スギ人工林
約465ha



東京ドーム
約99個

【出典】トラフィックカウンターおよびH17道路交通センサスデータ、ETC2.0プローブ情報をもとに作成

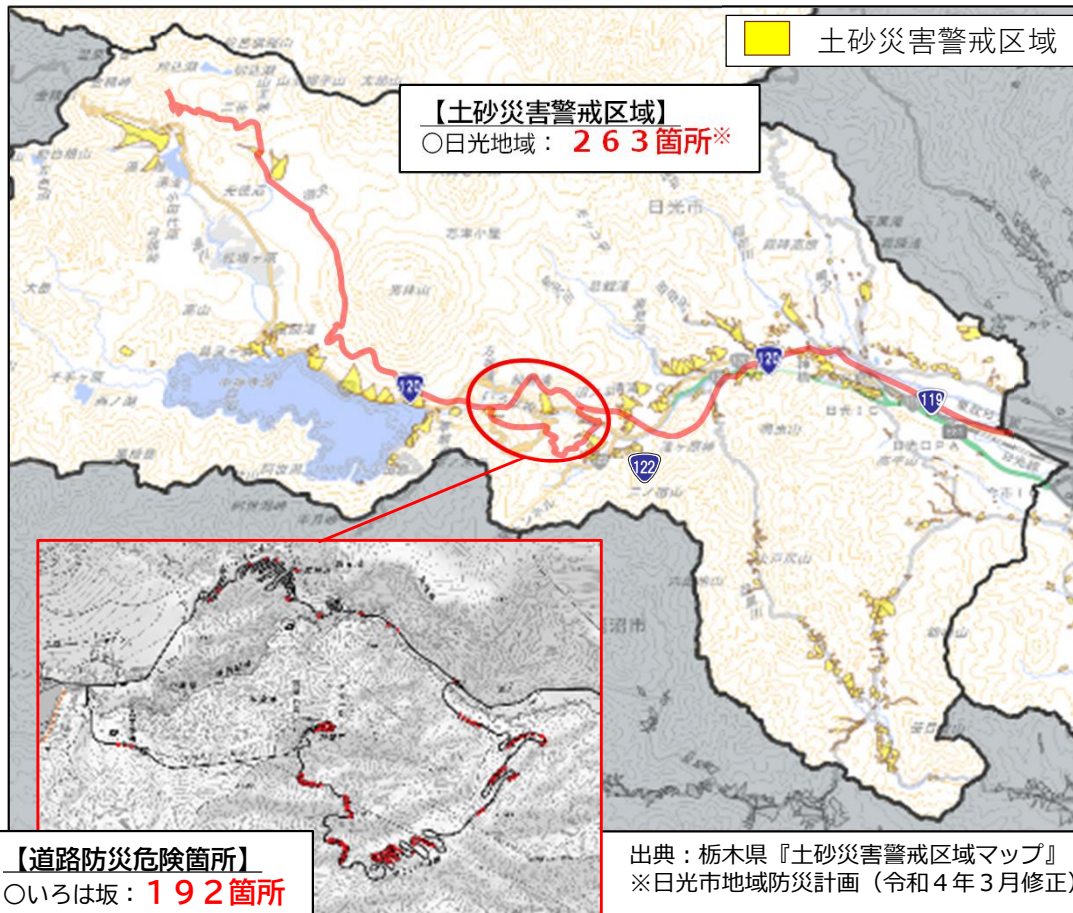
6) . 災害

2-(2)-6) . 地域が抱える課題

災害

- ・ 主要道路の国道120号は、栃木県と群馬県を結ぶ道路ネットワーク上重要な路線である。
- ・ 奥日光地区へのアクセスは、国道120号に限定されており、いろは坂や金精道路が災害等により寸断された場合は、地域が孤立してしまう。
- ・ 冬期は、金精道路が通行止めとなってしまうため、災害による孤立のリスクが高まる。

【道路防災危険箇所及び土砂災害警戒区域】



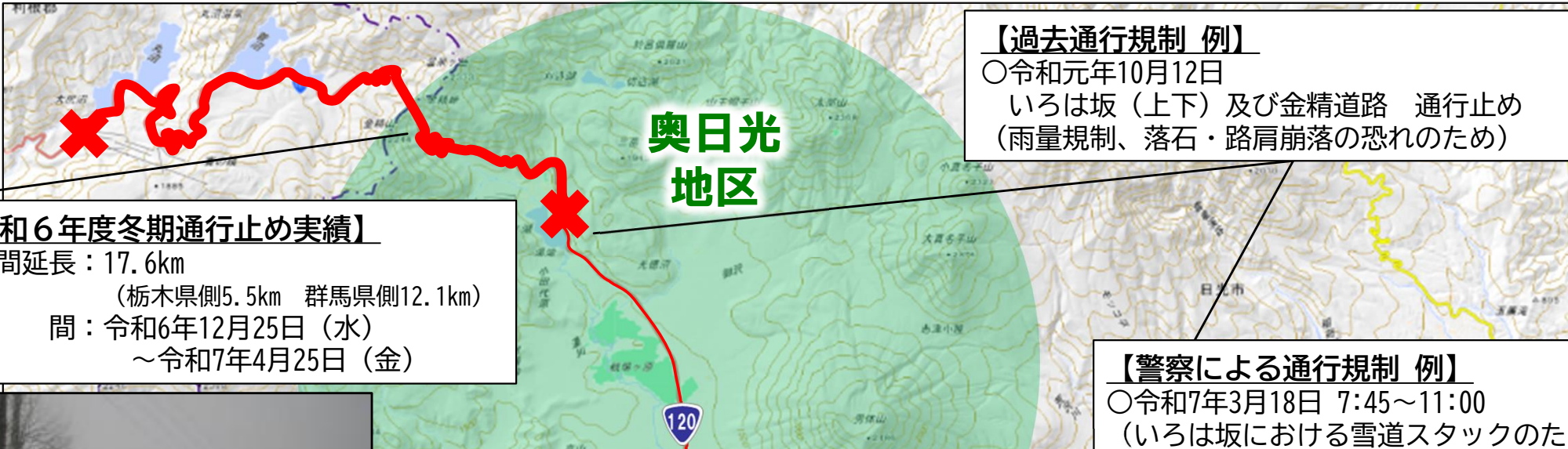
【冬期通行止め区間（国道120号）】



2-(2)-6) . 地域が抱える課題

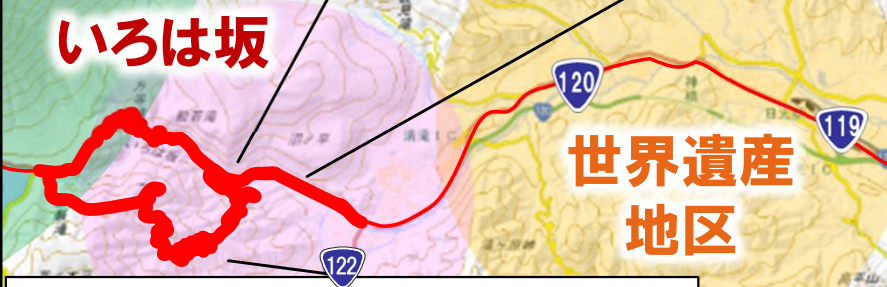
- 金精道路(国道120号)においては、毎年12月末から4月末まで通行止めが実施されている。
- 令和元年10月には、いろは坂・金精道路が通行止めとなり地域の孤立が一時的に発生した。
- 令和7年6月には、第2いろは坂で法面崩落が発生し、車線規制が実施された。

関係者ヒアリング等による現状と課題の分析



【令和6年度冬期通行止め実績】
○区間延長：17.6km
(栃木県側5.5km 群馬県側12.1km)
○期 間：令和6年12月25日(水)
～令和7年4月25日(金)

【警察による通行規制 例】
○令和7年3月18日 7:45～11:00
(いろは坂における雪道スタックのため)



7) . まとめ

3. 今後の取組方針

3. 今後の取組方針

- 交通量データやGPSデータ等の分析により、いろは坂の観光シーズンの渋滞だけでなく、交通量の季節変動や、マイカーや公共交通利用者の流動、物流を支える貨物車の流動など、年間を通じた人や物の流れを把握することができた。
- 地域住民、来訪者、関係事業者等に対するアンケート調査やヒアリングの実施により、地域を支える多様な関係者の声も把握することができた。
- 冬期について、いろは坂利用に対する物理的、心理的負担の声や、観光に関する魅力の低下に関する課題を確認できた。
- 人や物の流れは、環境保全、住民生活、地域振興、観光振興、災害など、様々な分野に大きな影響を与えていることが確認できた。
- 奥日光地域を持続可能な地域としていくためには、人や物の流れの円滑化が必要であり、奥日光地域へのアクセスや地域内での周遊も合わせて、地域全体で交通ネットワークの構築が必要。
- その実現に向けては、交通ネットワークの将来像を関係者で共有するとともに、多様な分野・主体間の連携による取組が必要。

3. 今後の取組方針

令和8年度

■ 「(仮称) 奥日光交通ビジョン」策定

- ・ 奥日光地域全体の交通の将来像や、今後の取組の方向性を定めた「(仮称)奥日光交通ビジョン」を策定
- ・ 地域全体の交通ネットワークのあり方を整理するとともに、各交通モードや結節点に必要な機能を整理

■ 協議会の設置

- ・ 学識経験者、地元住民、関係団体、関係機関等を構成員とする協議会を設置
- ・ 多様な視点から、持続可能な奥日光地域を支える交通ネットワークのあり方を議論



人や物の流れの円滑化による持続可能な奥日光地域の実現へ